



皆さんこんにちは。お元気ですか。ゴールデンウィークは出かけましたか？国内旅行？海外旅行？それとも、家でのおんびり過ごしましたか？

私は新婚旅行に行って来ました。新婚旅行に行ったということは...そうです！結婚しました。うわさで広まっていたかもしれませんが、本当です。

私は日本で結婚式をあげました。しかも、神社で！とても素敵な日々でした。私たちは2人ともドイツ人ですが、ドイツの教会ではなく日本の神社で、着物・袴を着て日本式に結婚式を挙げるのはもちろんとても珍しいことですし、ドイツ、ヨーロッパではできない経験です。5月の広報でも少しお話ししましたが、今月のコラムでは結婚について、式の内容や習慣の違いなどを詳しく紹介したいと思います。

では、ドイツの結婚式とはどんな感じなのでしょう？ドイツでは、キリスト教の人は教会で結婚式を行うことが多いです。ドイツ人の3分の2はキリスト教徒ですので、その人達は教会で結婚できますが、宗教を持っていない人は市役所の戸籍課でとても厳粛なセレモニーをしてくれます。教会でやるにしても戸籍課でやるにしても、結婚指輪はもちろん、白いウェディングドレスやライスシャワーが欠けてはいけません。ライスシャワーというのは、外で待っている友人がお米を投げるのですが、それも幸せや成功を祈るという願いを表しています。

戸籍課といっても、ドイツの場合はちゃんとしたセレモニーホールが市役所内にあります。儀式的で、厳かで、とても素敵な場所です。日本のようにただ婚姻届を出すだけではありません。婚姻届を渡すだけで結婚できるというのはドイツでは考えられません。しかも、新郎新婦二人で提出しなくてもよいというのは、十分に正式なものといえるのでしょうか？結婚だけではなく、離婚についても同様で、日本は簡単すぎると思います。ドイツでは、離婚する場合せめて一年間別居するなどの条件があり、大変ですよ。それこそ、結婚するということはとてもよく考えなくてはならないのです！

さて、結婚式の話に戻りますが、市役所での式が終わったらパーティー会場に移動し、お祝いします。しかし、日本の結婚式とは随分違います。周密に計画され、お手洗いの時間まで考え抜かれた劇のようである日本の披露宴は、私には恐ろしく感じます。特に新郎新婦は、料理や飲み物を楽しむ時間も、友達としゃべる時間もないようです。また、回転寿司のように（5月の広報の話を覚えていますか？）会場前には次のカップルと親戚が待っているし、披露宴の内容もセットとなっていて、キャンドルの色やお花を選ぶくらいしか自由がないのでは？そして、費用も高いですよ。日本の結婚式はビジネス・商売のようです。お金をかければいいと認められているような気がします。新郎新婦だけではなく、ゲストの方々もお金がかかります。ドイツの場合、まずゲストが会費を出すことはありません。費用はすべて新郎新婦もちです。式に招待されたら、お祝いの気持ちのプレゼントをあげます。日本のように招待された人が大金を包む習慣もなければ、包む金額が決まっているということもありません。親戚からは現金をあげることが多いのですが、両親でなければ一万円を超えることはめったにありません。また、お返しの習慣もなく、自分の結婚式に来た人が結婚する場合に、自分がいただいた物の価格に合わせてプレゼントすれば良いのです。

また、ドイツではごく普通なのですが、結婚する前から一緒に住む習慣があります。結婚してから初めて一緒に住むのは、最初から失敗してしまう可能性があります。二人で住んで、一緒に生活してみたり、お金を稼いだりします。そして安定した状態になったら、結婚することについて考えるのです。

さて、もっと山ほどの語りたいたいはありますが、記事のスペースが限られているので、来月の記事を楽しみにしてください。